

大支援研ニュース

特別支援教育

平成26年11月25日発行
大阪府支援教育研究会
会長 森田義昭
(茨木市立大池小学校長)

ホームページで
お知らせが
ある場合があり
ます

<http://daishienken.visithp.com/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

◇今後の平成26年度の役員総会の予定です。

役員総会（役員の方はご予約願いたします。）

第3回 日時：平成27年1月22日(木) 午後3時～5時 : たかつガーデン

冬季研修会のご案内（2次案内添付） **必ず 添付の二次案内をご覧ください。**

<http://daishienken.visithp.com/>

日時 平成27年（2015年）1月24日（土）
午前10時～午後4時（9時40分 受付開始）
午前の講座（午前10時～12時）
午後の講座（午後1時30分～3時30分）
場所 たかつガーデン 大阪市天王寺区東高津町7-11
内容 午前・午後 各3つの分科会を行います。内容は案内をご参照ください。

大支援研のHPから、12月9日（月）より申し込めます。
受け付け締切は1月10日ですが
定員に達し次第締め切ります。

午前・午後ともに参加していただくことを基本としますが、どちらかだけの参加も可とします。
分科会は、定員を40～60名と少人数に設定して、参加される方の意見交換や活動が積極的に行えることを期待しています。

前半

後半

A 困っている子どもの背景と支援	D 就労を通じて社会的自立をめざす本校の取組み
B 障がいのある子どもの性と生	E 算数に苦手さのある子どもへの支援
C ユニバーサルデザインの授業づくり	F 研究部担当 各地区からの実践報告

中河内支部指導技術研修会と東大阪市支援教育研究会の林間学校の記事をHPにアップしました。

ICT活用プロジェクト主催第2回のiPad体験会の案内はもうしばらくお待ちください。

他団体研究会のお知らせ

大阪ムーブメント教育研究会 第55回定例研究会 12月13日(土)14:00～16:00
内容:社会性を育むムーブメント教育 場所:大阪教育大学附属特別支援学校
参加費:500円 持ち物:動きやすい服装、体育館シューズ

http://www.good.zaq.jp/osaka_movement/sub2.html

平成26年11月25日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 森 田 義 昭
(茨木市立大池小学校校長)

冬 季 研 修 会 の ご 案 内 (二次案内)

晩秋の候、先生方もご活躍のことと存じます。

9月に一次案内を出しました大阪府支援教育研修会研修部主催による冬季研修会を以下の要項で実施いたします。ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

記

- ① 日 時 平成27年(2015年) 1月24日(土)
午前10時～午後4時 (9時40分 受付開始)
午前の講座(午前10時～12時)
午後の講座(午後1時30分～3時30分)
- ② 場 所 たかつガーデン 大阪市天王寺区東高津町7-11
近鉄 大阪上本町駅 北東 約 200m
地下鉄 谷町九丁目駅 東北東 約 500m
JR環状線 鶴橋駅 西 約 900m
- ③ 内 容 午前・午後、各3つの分科会を行います。内容は別紙をご参照ください。
午前・午後ともに参加していただくことを基本としますが、どちらかだけの参加も可とします。分科会は、定員を40～60名と少人数に設定して、参加される方の意見交換や活動が積極的に行えることを期待しています。

午前の部 3分科会 午前10時～12時 (9時40分 受付開始)

A **困っている子どもの背景と支援** ～ **矯正教育の現場から**
宮川医療少年院 宮口 幸治氏

B **障がいのある子どもの性と生** ～**明るく元気な性教育をめざして～**
高等部卒業後の学びの場「ぼぼろスクエア」 千住 真理子氏

C **ユニバーサルデザインの授業づくり**～**みんなが『わかる・できる・使える』授業に向けて**
大阪府教育センター 主任指導主事 石村 和彦氏

D 就労を通じて社会的自立をめざす本校の取組み

大阪府立たまがわ高等支援学校 富永 誠校長先生、寺田侑平先生

E 算数に苦手さのある子どもへの支援 ～脳からみた算数の学習とつまずき解消法～

DDサポートひらかた コーディネーター 近藤 春洋氏

F 研究部担当 各地区からの実践報告

外部専門家と連携した支援・指導の取組み～「自立活動アドバイザー派遣事業」を通して～

堺市立上神谷支援学校 島津 雅子先生、井上 有里先生

支援学校高等部における音楽授業のユニバーサルデザイン

大阪府立八尾支援学校東校 山本 耕平先生

④ 申し込み期間 **平成26年12月8日(月)**

～ 27年 1月10日(金)

ただし、各講座、会場の定員に達し次第、受付を締め切ります。

⑤ 申し込み方法 **大支援研のHPから、申し込みお願いします。**

「大支援研」で、検索してください。

<http://daishienken.visithp.com>

氏名、所属校、参加希望講座、連絡先を必ず明記してください。

☆ HPから申し込みされたら数日以内に、申し込みされたアドレスに返信メールを送信します。まだ定員に達しておらず参加いただくことが可能でしたら、「参加確定メール」をお送りします。もし、定員超過の場合等、ご希望に添えない場合には、「お断り」のメールをお送りします。

連絡は、申し込みされたアドレスに送らせていただきますので、返信メールの受信が可能かどうか、ご確認ください。学校のPCや携帯電話などから申し込まれた場合に、返信メールが届かない事例がありました。

返信メール以外での連絡をご希望される場合、「通信欄」に勤務先またはご自宅の連絡先(メールアドレス、電話またはFAX番号 など)をご記入ください。

☆ もし、申し込み後、1週間以上、連絡がない場合には、申し訳ありませんが、お問い合わせください。

⑥ 問い合わせ先 大阪府支援教育研究会 書記(研修部担当) 佐藤正幸

摂津市立第四中学校 **FAX 06-6349-6184**

または、大支援研のHPから、お問い合わせください

大阪府支援教育研究会 2014年度冬季研修会

講座の内容

☆ それぞれの講座内容についての具体的な質問や、講師の方に相談されたい事例がありましたら、お申し込みの際に、「通信欄」にご記入ください。
なお、具体的な事例について書かれる場合には個人情報にご配慮ください。

午前の部 3分科会 午前10時～12時 (9時40分 受付開始)

A **困っている子どもの背景と支援** ～ 矯正教育の現場から

宮川医療少年院 宮口 幸治氏

これまで発達障がい、知的障がいをもった非行少年たちを大勢みてきましたが、彼らの多くは学校で様々な不適応を起こし、学校生活を普通に送れなくなった少年たちばかりです。しかし学校でそれらの障がいに気づかれていた少年たちはほとんどいません。被害者を作り警察に逮捕され、少年鑑別所に入って初めて障がいがあったことに気づかれるのです。それまでは、やる気のない、ふざけている問題児としてみられてきました。

彼らはどのようなところでつまずいてきたのか、不適応にはどのような背景があったのか、そしてそのような彼らにどのような支援が効果があるのかをミニワークもまじえながらご紹介していきます。

B **障がいのある子どもの性と生** ～明るく元気な性教育をめざして～

高等部卒業後の学びの場「ぼぼろスクエア」 千住 真理子氏

堺市立中学校の支援学級や支援学校で障害児教育に携わり、性教育をスタートしました。

一生懸命に学ぶ子どもたちの姿に、本当に知りたい学びなのだと思いが性教育の虜になりました。現在は、堺市と「ぼぼろスクエア」で障がいのある青年への性教育や、障がいのある中学生へ性のセミナーをしています。中学生は自分のからだの変化が喜びになり、学ぶことで落ち着きます。青年たちにとっては進路とも関わり、人生の大きな励みになっています。

障害者権利条約23条では、恋愛や家庭を持つ権利、性教育を受ける権利について認めています。子どもたちのたった一つの命、一度きりの人生を輝かせるために、小学校から高等部まで友だちといっしょに明るく元気に学ぶ性教育に取り組みましょう。

C ユニバーサルデザインの授業づくり～みんなが『わかる・できる・使える』授業に向けて

大阪府教育センター 主任指導主事 石村 和彦氏

「みんながわかる授業」に向けて、すべての学校園でさまざまな取組が試みられています。通常の学級における授業に支援教育の理念や方法が導入され、先生方の工夫により、さまざまな成果が報告されています。また、「インクルーシブ教育」システムの構築に向けた取組の一つとして「ユニバーサルデザイン」の授業づくりが広がり、授業改善は刻々と進みつつあります。

今回は、これらの成果をふまえつつ、さらに「学び」を中心とした「ユニバーサルデザインの授業づくり」について深めたいと考えています。今、求められる「学び」とは何か。「わかる」授業から「わかる・できる・使える」授業への改善に向かうとき、ユニバーサルデザインの工夫はどうあるべきか。思考場面における支援はどのようにすればいいのか。それらを、具体的な教材の練り上げの過程を共有しながら、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

午後の部 3分科会 午後1時30分～3時30分 (1時15分 受付開始)

D 就労を通じて社会的自立をめざす本校の取組み

大阪府立たまがわ高等支援学校 富永 誠校長先生、寺田侑平先生

本校は、大阪府として初めて職業に関する専門学科を設置する知的障がいの支援学校として、平成18年4月に開校しました。「心豊かな人間の育成を図り、就労を通じた社会的自立をめざす生徒を育成する」という学校目標を達成するため、職業教育・キャリア教育を中心に教育活動を展開し、毎年卒業生の80%以上が企業に就労するという結果を残し続けています。同時に高等学校に共生推進教室を設置し、本校学籍の生徒が高等学校の生徒と「共に学び、共に育つ」共生推進教育もけん引してきました。本校のこれまでの9年間にわたる取り組みと今後の展望についてご紹介したいと思います。

ただ、就労を志して入学してきた生徒たちのほとんどが、就労という目標を達成していく中で、残念ながら進路変更（中途退学、転学等）を決断せざるを得なかった生徒もいます。学級の中で「学校をやめたい」「他の学校がよかった」といった声が聞こえることもあります。しかしそのほとんどは教員に何かを伝えたいためのメッセージであり、言葉通りの意味ではありません。ではなぜ、実際に進路変更という決断をするに至った生徒がでたのでしょうか。後半は、昨年度の実例を基にお伝えできればと考えております。

また、学力差が大きい10人～11人の授業で、就労を意識した数学の授業をどのように展開しているかについても実践報告いたします。

E **算数に苦手さのある子どもへの支援 ～脳からみた算数の学習とつまずき解消法～**

元大阪府立交野支援学校 指導教諭、DDサポートひらかた コーディネーター 近藤 春洋氏

算数が苦手である背景にはさまざまな要因が考えられますが、近年の脳科学の知見から脳内での量のイメージ（量表象）に関わる部分の機能がうまく働いていないことが深く関わっている場合があることが明らかになってきています。このような場合、空間の中での物の状態・物の操作がしっかりとイメージできる『数と空間を結びつけるアプローチ』が有効であると考えられています。

今回の研修では、近年の脳機能研究で明らかになってきている算数障がいの脳内メカニズムと、つまずきの具体的解消法として「具体物とPCソフトを相互補完的に使った支援」のお話をさせていただきます。

F **研究部担当 各地区からの実践報告**

外部専門家と連携した支援・指導の取り組み～「自立活動アドバイザー派遣事業」を通して～

堺市立上神谷支援学校 島津 雅子先生、井上 有里先生

本校は、堺市立の知的障がいのある子ども達に通う特別支援学校です。平成20年度の特別支援学校学習指導要領の改訂で、障害の重度・重複化、多様化への対応や一人一人に応じた指導の充実のために、外部専門家と積極的に連携し、最も適切な指導ができるようにすることが規定されました。その取り組みの一つとして、本校では、市が行う事業「自立活動アドバイザー派遣事業」を通して、作業療法士（OT）や言語聴覚士（ST）等の専門家と連携し、教育活動の充実に取り組んでいます。また、本事業は、地域の学校園における事例相談や教員研修を実施することが主な目的でもあり、本校の専門性の向上とともに、センター的機能の充実も求められています。

今回は、本事業を通して外部専門家と連携した支援・指導の取り組みを報告させていただきます。また、参加者の皆様の学校での取り組みについて情報交換の時間を持ち、より効果的な連携のためのアイデアをいただける機会にできたらと思っています。

支援学校高等部における音楽授業のユニバーサルデザイン

大阪府立八尾支援学校東校 山本 耕平先生

現在、インクルーシブ教育や基礎的環境整備・合理的配慮の観点から、あらゆる学校で「誰でもわかる」授業づくりを行っていくことが求められるようになってきています。児童・生徒の多様なニーズに応じるためには、支援が必要であるかどうかを問わず、「ユニバーサルデザイン」の観点が非常に重要です。また今後は、学校の授業において「ユニバーサルであること」がむしろ当然のものとして考えられていく世の中になっていくと考えられています。

今回は、学校教育におけるユニバーサルデザインの考え方を紹介しつつ、発表者がこれまでに支援学校高等部で行ってきた音楽授業の実践報告を基に、ユニバーサルデザインの考えに基づく授業づくりの具体的なアイデアを紹介していきます。